

令和元年度事業報告書（2019.4.1～2020.3.31）

公益財団法人 美術工芸振興佐藤基金

I. 事業の概要

当法人の目的である、美術工芸を通じての国際間の相互理解の推進及び我が国文化の発展のため、下記の事業を行いました。

石洞美術館では、夏に涼しさを感じられる青色や紺色で彩られたやきものを展示した「涼風のわく 一館蔵染付展」、石洞美術館の主な収蔵品を収集した佐藤千壽初代理事長と古美術品や人との出会いをテーマとした「石洞山人交遊録 一人に出会い、ものと遊ぶ」展を開催しました。

また、当法人が主催する若手金工作家奨励賞である淡水翁賞が 35 回を数えたことを記念して、第 1 回から第 35 回までの受賞者の作品を展示した展覧会「輝けるメタルアート ー淡水翁賞 35 回記念ー」を開催しました。

助成事業では、海外調査の研究助成など、3 件の助成をしました。

なお、本年度は、令和 2 年 1 月 28 日に指定感染症と定められた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染予防・拡大防止のため、石洞美術館を 3 月 3 日より臨時休館とし、第 36 回淡水翁賞の授賞式については延期することとしました。

II. 事業毎の概要

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

① 展覧会

- ・平成 31 年 1 月 12 日より 4 月 7 日まで「十二支展」開催。
開館日数 73 日、来館者 1,400 名、1 日平均 19.1 名
(内平成 31 年度 開館日数 6 日、来館者 110 名)
- ・平成 31 年 4 月 27 日より令和元年 8 月 4 日まで「涼風のわく 一館蔵染付展」開催。
開館日数 86 日、来館者 1,432 名、1 日平均 16.7 名
- ・令和元年 8 月 31 日より 12 月 15 日まで「石洞山人交遊録 一人に出会い、ものと遊ぶ」展開催。
開館日数 92 日、来館者 1,359 名、1 日平均 14.8 名

- ・令和2年1月11日より3月2日まで「輝けるメタルアート ー淡水翁賞 35回記念ー」展開催。

開館日数 44 日、来館者 906 名、1 日平均 20.6 名

※ 本展は令和2年4月5日まで開催の予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため3月2日までで中止としました。

② 地域との連携活動

- ・足立区内の文化施設4館と連携して「コンサート in ミュージアム」を開催しました。石洞美術館では、「石洞山人交遊録 一人に出会い、ものと遊ぶー」展に合わせて、ケーナ、クラリネット、アルパ、ギターのアンサンブルによるコンサートを行いました。

③ 広報活動

- ・「ぐるっとパス 2019」に参加しました。

④ 資料の収集

- ・資料の購入

《陶磁器》古染付5件（七寸皿4件、鉢1件）、古九谷皿1件、
船木研兒作・皿1件

以上7件を購入しました。

- ・資料の寄贈

市川正美氏より、市川正美作赤銅製花瓶1件

長野埴志氏より、鎌倉時代から江戸時代にかけての和鏡20件

以上21件の寄贈を受けました。

⑤ 博物館館務実習受入

- ・武蔵野美術大学1名、成城大学1名

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

- ① 米国ハーバード大学（東アジア言語文化学科）に対し当財団と土屋文化振興財団の双方で\$ 5,000 ずつの助成を行いました。
- ② 太田泉フランス（東京大学大学院） 「西欧中世におけるパネル型聖遺物容器研究－《リブレット》を中心に－」（研究助成）
- ③ 松本 隆（武蔵野美術大学非常勤講師） 「イタリア・ルネサンスの陶芸技法研究：ピッコルパッソ『陶芸三書』における釉薬レシピの再構成」（研究助成）

以上 3 件、助成総額 ￥1,935,150

(2) 淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

第 36 回淡水翁賞については、所定期日までに 5 名の応募があり、選考委員会の議を経て、最優秀賞に小田薫氏、優秀賞に水代達史氏、高橋賢悟氏が選出されました。

なお、授賞式につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため延期することと致しました。

附属明細書について

令和元年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書を作成しない。

令和 2 年 5 月

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金